

平成22年

季刊

秋季号

Vol.35

# 亞東



社団法人亜東親善協会社会見学会：百里基地



社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

## 社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

### 事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の斡旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

季刊「亜東」平成二十二年 秋季号 目次

社団法人亜東親善協会概要・目次

二頁

双十国慶節祝辞 台北駐日経済文化代表處 馮寄台代表

三頁

台北駐日経済文化代表處横浜分處新處長着任

四頁

紀念辛亥革命・百周年の意義

吳淑娥理事

五頁

亜東親善協会・社会見学会報告書

七頁

青少年訪台使節派遣団・感想文

十二頁

お知らせ・編集後記

十九頁

## 双十国慶節祝辞

台北駐日經濟文化代表處

代表 馮寄台 閣下

十月十日は中華民國の建国を祝う双十国慶節です。皆様おめでとうございます。

中華民國は国慶節の後、いよいよ記念すべき建国一〇〇周年の節目の年を迎えます。

中華民國は数奇な歴史をたどりながらも、理想を堅持し、台湾の地で自由と民主主義を確立し、經濟發展を遂げ、進歩した文明社会を築き上げてきました。今後、次の一〇〇年に向かってよりよい将来を築いてまいりたいと思います。

国父・孫文の革命は日本から始まりました。梅屋庄吉、頭山満らをはじめとする日本人志士

たちの支援がなければ、辛亥革命は成功しなかったことでしよう。中華民國の革命を支持してください。中華民國の皆様に感謝を申し上げるとともに、日本の友人の皆様方もぜひ華僑の方々と一緒に、来年の中華民國一〇〇周年を祝賀する様々なイベントへのご参加を歓迎いたします。

二〇〇八年に馬英九總統が就任以来、台湾の政府は兩岸との和解政策を進め、「活路外交」を推進し、国際社会で發揮できる空間を切り開いてきました。

馬總統は台日関係をきわめて重視しており、これまでに約七〇組もの日本訪問団と会い、台湾と日本の緊密な関係の重要性を強調してきました。

台日間の観光交流も緊密であり、昨年は日本から一〇〇万人

あまりが台湾を訪れ、台湾からは一三万人あまりが日本を訪れました。台湾にとって日本は第二の貿易パートナーであり、日本にとっても台湾は第四の貿易輸出相手であり、きわめて緊密な經濟・貿易関係があります。

また、今年一月〜八月における台湾の貿易収支は対中国（香港含む）で五二六億ドルの貿易黒字、対日本で二三億ドルの貿易赤字となっています。これは、台湾から中国大陆への輸出の多くは半製品であり、その部品には日本製のものも多く含まれ、中国大陆で組み立てられて日本を含む世界へ輸出されるという經濟構造を示すものです。

台湾と中国大陆が兩岸經濟協力枠組み協議（ECFA）を締結したことにより、台湾企業の対中ビジネスの競争力が強くな

り、今後日本企業と協力して中国へ投資するビジネスチャンスも広がります。

台日関係は順調に進展しており、昨年六月に台日ワーキングホリデー査証制度を開始し、十二月に北海道に駐日代表処札幌分処を開設しました。

今年四月に当代表処内に「台北文化センター」を開設し、十月三十一日には台北松山空港と東京羽田空港を結ぶ直行便が就航します。午前七時に羽田を出発した飛行機は九時四十五分に台北に到着。午後に得意先の工場を回って、夕方六時十五分に台北を出発し、夜九時五十五分に羽田に到着するといった日帰り出張も可能になります。東京〜台北はいよいよ一日生活圏に入ります。

今年十一月六日より台北市で

「台北国際花の博覧会」が開催

されます。これは国際園芸家協

会（AIPH）が認定する国際

的イベントで、九一、八ヘクタ

ールの敷地に十四のパビリオン

が設けられ、三三〇〇種類、三

〇〇〇万株の花が楽しめます。

会場は台北松山空港からタクシ

ーでわずか十分という近さです

ので、この機会にぜひ台湾へお

越しください。

最後になりましたが、東アジ

アの安定と繁栄、並びに中華民

国と日本の一層の関係強化を願

い、私の挨拶とさせていただきます。

台北駐日経済文化代表處

横浜分處新處長着任

廖經邦・駐日副代表が台北駐日

経済文化代表處横浜分處の新處

長に任命され、東京・白金台の

台北駐日経済文化代表處で八月

二九日午前、宣誓式が行われた。

宣誓式では、監誓人である馮寄

台・駐日代表、および羅坤燦・

駐日副代表の立会いの下、新任

の廖經邦・横浜分處處長は、中

華民國國旗ならびに國父(孫文)

の肖像画に向かい右手を上げ、

宣誓文を読み上げた。

九月八日に横浜分處へ着任予定

の廖・新處長は、この日の宣誓

式に先立ち、インタビューに応

じ、今年十一月一〇日から中旬

にかけて横浜でAPECの閣僚

会議、首脳会議などが開催され、

台湾の代表団も出席することか

ら、横浜分處の果す役割につい

て、「台湾の代表団が来日した際

の日本での活躍関連については、

東京の駐日代表が窓口となるが、

横浜分處も全面的にサポートし

ていきたい」と説明した。

またAPEC以外については、

「横浜分處の主な任務は二つあ

る。一つは華僑社会の融和であ

り、もう一つは横浜市議会、神

奈川県議会、神奈川県庁などと

の交流である。後者については

すでに盛んに交流が行われてお

り、これは歴代の横浜分處處長

が築いてきた基礎があり、その

延長線上で私も全力投球してい

きたい」と抱負を述べた。

さらに「横浜と東京は近いので

転勤という感覚はあまりなく、

随時東京の代表處の指示や指導

を仰ぎたい。また同時に東京の

代表處のスタッフとも大いに協

力していきたい」と述べた。

横浜分處新處長のプロフィール

氏名・廖經邦（リョウ・ケイホウ）

一九五一年 台湾生まれ

○学歴

一九七三年

國立台湾大学英文科卒業

一九八二年〜八四年

慶應義塾大学にて研修

○経歴

一九八七年・財務省勤務

一九八二年・外交部入省

一九八八年・亜東関係協会東京

弁事處書記官

二〇〇五年・亜東関係協会副秘

書長兼日本事務会副執行長

二〇〇七年・台北駐日経済文化

代表處顧問兼業務部部长

二〇〇九年・台北駐日経済文化

代表處副代表

二〇一〇年九月八日

横浜分處處長に着任

【台北駐日経済文化代表處

2010年10月10日】

【台湾週報より】

# 紀念辛亥革命一百週年的意義

今天是中華民國一百年的國慶日，也是辛亥革命建立中華民國一百週年紀念日，在此我們首先要祝賀中華民國生日快樂，也要對當年拋頭顱灑熱血的先烈，致以最大追悼之意。

回憶十九世紀末二十世紀初，西方列強以船堅利砲與鴉片毒品打開了滿清王朝的大門，中華民族面臨著內憂外患，交相煎迫的困境之中，當時知識分子最關心的問題就是「中國往何處去？」在這個主題之下中國社會展開了從變法到革命的艱難探索。

國父孫中山先生深知不革命無法救亡圖存，1894年「興中會」在檀香山成立，確立了「推翻滿清，建立共和」的革命目標。第一次廣州起義失敗後，孫中山先生流亡海外，考察歐美民權和獨立革命，探索發動中國革命的理論。1905年「同盟會」於日本東京成立，在「民報」創刊號的發刊詞中，孫中山先生闡述了三民主義的精義，提出了「驅逐韃虜，恢復中華，創立合眾政府」的革命建國綱領。在歷經十次革命起義失敗後，終於在1911年10月10日，武昌起義成功，推翻了滿清王朝的統治，結束了長達二千餘年的君王帝制，建立了亞洲第一個民主共和國——中華民國，因當年為辛亥年，故稱辛亥革命。

辛亥革命雖已成為歷史，但他一直影響著我們的現實，當今海峽兩岸雖然政治制度有著極大的差距，但對孫中山先生以及辛亥革命卻同樣抱持正面的評價，因此，我們必須格外的珍重這段歷史，讓它作為發展兩岸關

係的出發點。「去異求同」是兩岸關係發展的必然之路，對孫中山先生以及辛亥革命的評價，正是兩岸在各項議題上最基本的相同點，具體的來說，孫中山先生以及辛亥革命對於兩岸關係的意義在於：

第一，辛亥革命結束了中國二千餘年的君主專制制度，還政於民，開啟了民主制度。民主觀念百餘年來雖遭到不同程度的曲解破壞，但是兩岸民智已開，民主的實踐已是一條不歸路，民主的價值已深深烙印在人民心中。

第二，孫中山先生的豐功偉業、革命先烈、仁人志士身懷理想、犧牲奉獻的義舉，是兩岸人民所共同景仰的典範。從孫中山思想作為出發點，逐漸拉近兩岸政治的相異之處，建立共識，為兩岸和平奠定基礎。

第三，辛亥革命不但在政治上結束了君主專制制度，經濟上、社會上亦打破階級制度，開啟了人民平等共榮之途。孫中山思想對民生主義的論述，在今日來看尤其具有他的時代意義，在兩岸經濟交流日益密切的同時，孫中山思想也隨著影響及人民的觀念，在經濟發展、社會安全的觀念一致以後，兩岸和平、政治議題上必將獲得重大突破。

最後必須提出的是：孫中山先生推動革命之時，曾獲日本友人大力協助，這是我們紀念辛亥革命一百週年時要珍視的史實，盼中日雙方在此基礎之上良性互動，讓雙方關係更形穩定成長。

中華民國留日東京華僑婦女會

會長 吳淑娥

社会見学会

開催 平成二十二年七月十五日

視察先 茨城県

予算編成上の財源問題、景気と関連して行われた、事業仕分けされた各予算。防衛費、科学技術費、食の安全を含む安全保障費軽減の是非・検証のため、国交省・茨城空港、防衛省・百里基地、文科省・J・PARKU、イトウ製菓を視察、最新技術等現状把握出されればと企画致しました。

八時半 参議院面会場前集合  
玉澤会長・大江副会長、並木顧問始め十七名が参加しました。

○茨城空港（茨城県小美玉市）  
茨城県支部長・石川多聞茨城県議会議員（元茨城県議会会議長）  
国土交通省東京航空局百里空

港事務所・加藤功二空港長。

茨城県企画部・斎田陽介空港対策監。

社団法人茨城県開発公社空港管理事務所・狩野晴雄副所長がターミナルビル前にてお出迎え

狩野副所長の先導でターミナルビル視察。東京から空港までのアクセス時間は車で約九〇分。三月十一日開港された百里飛行場（愛称・茨城空港）新滑走路長さ二七〇〇m、幅四五m、駐車場一三〇〇台何日でも無料、ボーディングブリッジは無く、タラップを利用、出発・到着ロビーを一階に集約したコンパクトな設計で搭乗する際の上下移動が無い。

格安航空会社の誘致を図る為機体稼働率を高める、空港使用料を安く、折り返し時間の短縮が可能な中小空港として、首都

圏の不足する発着枠を担うなど加藤空港長より概要説明がありました。



チェックイン・カウンター前で記念撮影。  
出入国手続き体験。国際線出発ゲートより、保安検査所で手荷物検査、出国手続き後、搭乗口よりエプロン・駐機場へ。  
到着口より入国手続き、手荷物受取所、税関検査所を経て国際線到着ゲートまで。  
エスカレーターで二階へ。売店、レストランがあり、地元の人が見学者で溢れていました。

送迎デッキに出ると、唯一の国内線スカイマーク社・茨城―神戸線B七三七到着していました。国際線は韓国ソウルを毎日一便就航している。残念なことに、国内線は八月末をもって終了。

首都圏三番目、成田・羽田の受け皿として、今後、航空需要の一翼を担う空港と期待される。

続いて百里基地へ移動。

○百里基地（茨城県小美玉市）

関東で唯一の戦闘航空団が所在する航空基地で帝都防空の任にあたり、我が国周辺における国籍不明機、領空侵犯措置や航空偵察の任務に着いている。

百里基地所在部隊

第七航空団・中部航空施設隊第三作業隊・偵察航空隊・百里救難隊・百里管制隊・移動管制隊・百里気象隊・百里地方警務隊・百里地方情報保全隊。

百里基地沿革

基地の前身は、昭和十三年に開設された旧日本帝国海軍百里ヶ原航空隊。終戦後、跡地に開拓農民入植。昭和三十年に地元から基地誘致運動が発足。昭和三十三年 百里分屯基地が設置。昭和四十年 百里飛行場が完成。昭和四十一年七月百里基地発足。四十二年 入間より第七航空団司令部移駐。五十年 偵察航空隊移駐。

表敬懇談・概況説明

荒木淳一空将補（航空自衛隊第七航空団司令兼百里基地司令）基地訪問歓迎の挨拶があった。基地の任務は、防空、対領空侵犯措置、災害派遣等。

周辺国の空軍の状況

中華人民共和国・約一九八〇機  
第一・二世代 四二％、  
第三世代 二六％、  
第四世代 二一％。

極東ロシア・約六〇〇機

第三世代 四七％  
第四世代 五三％  
北朝鮮・約五八〇機  
第一・二世代 七八％、  
第三世代 一六％、  
第四世代 六％。

韓国・約五三〇機

臺灣・約五三〇機  
日本・約四三〇機（二・四世代）  
在日米軍・約一四〇機  
在韓米軍・約六〇機

爆撃機による活動事例

平成二〇年二月一〇日 ロシア空軍の戦略爆撃機「ツポレフ九五（TU九五 通称ベア）」が、オホーツク海上空から太平洋上を南下する「東京急行コース」を飛行。東京・小笠原諸島付近で針路を変え、鳥島の南に位置する婦孺岩付近の上空を約三分間領空侵犯。航空自衛隊は、

千歳基地、三沢基地、百里基地、小松基地、浜松基地などからF一五戦闘機、F四戦闘機、

空中警戒管制機等二四機を緊急発進させた。追跡、ロシア語で通告、次の段階の警告を実施したが一切応答がなく侵犯機は太平洋上空を北上し、オホーツク海を経て、ロシア方面に戻った。○本年一月二八日 沖縄方面に飛行したTU九五爆撃機は、ロシア機として初めて、与那国島と台湾との間まで進出する長距離飛行を行った。

過去五年間の領空侵犯に対する緊急発進（カッコ内はロシア）

一七年度 二二九回（二一六）  
一八年度 二三九回（一九六）  
一九年度 三〇七回（二五三）  
二〇年度 二三七回（一九三）  
二二年度 二九回（一九七）  
等の説明がありました。





### 基地・航空機見学

バスで基地内を車窓より視察。戦闘機駐機場で下車。戦闘機はF4とF15が配置されている。

### F4要撃戦闘機

主要スペック 全幅十一、七m。  
全長十九、二m。前高五m。

アフターバーナー付ターボジェットエンジン二基搭載。

最大全備重量・約二五、九t。  
最大速度マッハ2。行動半径は短距離要撃・約一八〇km。  
長距離要撃・約八〇〇km。

武装 二〇mm機関砲・一門。  
空対空レーダーミサイル・四発。  
空対空赤外線ミサイル・四発。

機付長三等空曹の説明で、縦列複座タンデム前席に案内された。



操縦席は非常に狭く、計器・スイッチで埋め尽くされていた。

### 基地内食堂での昼食

協会社会見学会で以前、横須賀基地訪問。当日は金曜日で、海軍恒例の(カレーライス)の昼食を頂きました。



今回は木曜日で百里基地では、昼食はカレー。週替わりで各種のカレー、今週はチキン。

基地隊員と懇談を交え、日常業務等のご苦勞を拝聴、前述の如く、周辺諸国による領空侵犯の多発に改めて驚かされました。

### 〇イトウ製菓(茨城県小美玉市)

一九五二年設立。ミスター・イトウで有名なクッキー・ビスケットの製造・販売会社。

第二工場には、伊藤明代表取締役会長、市原充取締役生産本部長、中村雅昭第二工場長他イトウ製菓幹部役員が説明の為出席。島田穰一小美玉市長同席された。伊藤会長の挨拶の後、商品説明、安全衛生等説明がありました。



中村工場長の案内で第二工場見学へ。白衣・帽子を着用。工場入口で靴カバー・足バンド・マスクを装備。埃とりロール、手洗い、消毒、エアー洗浄を経て工場内に。清潔な工場、ワンラインで原料の塊がクッキーに成形、箱入りまで。夏とはいえ、工場内の暑さには驚かされ、特に焼成炉まわりの体感温度は、八十度近く感じられた。



アメリカンソフトクッキー宇治茶製造工程では、消費者のクレームが無いように一つ一つのクッキーの上面に必ずチョコが見られるようにするなど、工夫が凝らされていました。焼き上がりのクッキーをライン上から採って頂きました。とても熱く、かつ軟らかでしたが、非常に美味でありました。

工場見学記念として、ラムレーズンサンド、チョコチップクッキー、等イトウ製菓の商品詰め合わせをお土産に頂きました

○J・PARC(茨城県東海村)

財団法人原子力研究バックエンド推進センター菊池三郎理事長のご手配で(大強度陽子加速器施設)の視察。

原子力科学研究所に到着。

(JRR-1 昭和三十二年九月十八日・第一号実験原子炉跡)



J・PARCとは

J Japan 日本

P Proton 陽子

A Accelerator 加速器

R Research 研究施設

C Complex 群

大強度陽子加速器・原子や原子核の世界を見て調べる為の装置。

\*数多くの陽子のスピードを上げる電気機械。身近な加速器は、テレビのブラウン管。

大強度陽子ビームをつくる。

①リニアック(線形加速器)全長約三三〇m。陽子を発生させて、最初の加速を行う装置。

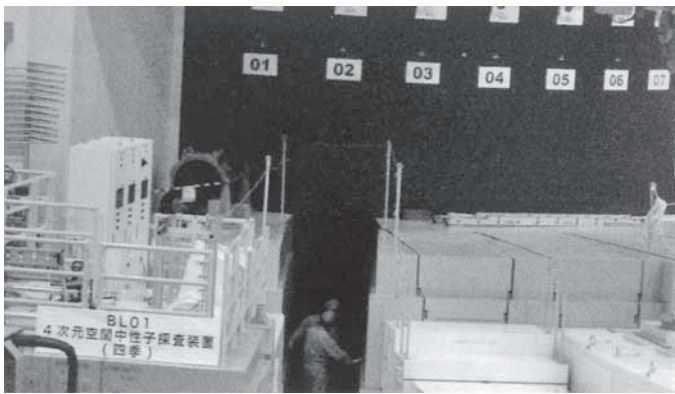
②3GeVシンクロトロン 周長約三五〇m。さらに陽子を三〇億電子ボルトのエネルギーまで加速する装置。

③50GeVシンクロトロン 周長約一六〇〇m。さらに陽子を五〇〇億電子ボルトのエネルギーまで加速する装置。

独立行政法人日本原子力研究開発機構・横溝英明理事。同上塚寛執行役。同J・PARCセンター池田裕二郎副センター長。同庄子邦明東京事務所長の出迎。

挨拶の後、鈴木広報セクションリーダーより概況説明

\* 陽子の速さは光速の約九  
九、九八%になる。



光速に近い速さまで加速された陽子を、標的となる金属の原子核に衝突させると、標的の原子核が壊されて、中性子や反陽子、 $\pi$ 中間子（ミュオン・ニュートリノ）、K中間子などの二次粒子が発生します。

①物質・生命科学実験施設。二次粒子を利用しての研究。

二次粒子の中性子やミュオンを利用して、物質科学、生命科学などの研究を行う施設。高密度磁気メモリ・大容量小型電池の開発等産業の創出が期待される。



②原子核・素粒子実験施設。ニュートリノ実験施設。

二次粒子の中間子やニュートリノを利用して、原子核や素粒子の研究を行う施設。宇宙の重さの起源は、素粒子ニュートリノと関係するのか？謎を探る。宇宙創成の期限は？ビックバン直後に素粒子や原子核はどのように創られたのか？地球を走り抜けるニュートリノ。東海村から二九五km離れたスパーカミオカンデ検出器（岐阜県飛騨市）まで送り（T2K実験）ニュートリノに質量があるか測定する。これにより誕生直後の宇宙の姿を捉え、宇宙は膨張するか、収縮に向うか疑問を解明する。

J・PARCに集まる国内外の研究者。成果公開は無償利用可。科学を担う人材の育成。新産業の創出。生命科学の研究拠点として、最先端科学の発信地となっている。

今回の社会見学会は、国土交通省、防衛省、イトウ製菓、RANDECの窓口担当の方々に、手配等便宜を図って戴きました。誠に有難う御座いました。



見学会参加者は、新宿に戻り、李理事の東京大飯店での親睦宴で過密日程の疲れを癒しました。

## 台湾ホームステイ感想文

大熊浩史

(帝京短期大学 二学年)

僕が台湾の旅行を行きたいと思えたのは半分以上は気まぐれでした。それでも、この六日間はとても充実した日々を送ることができました。

それも、ホームステイ先のお父さん、お母さんやその他のロータリークラブの方々のお陰です。なんて感謝をすればいいかわかりません。本当にありがとうございます。ございました。

このロータリークラブでの台湾旅行は私にとっての初めての海外旅行であり、色々不安なことがたくさんありました。ですが、ロータリーでの台湾の人々は私

たちにとっても優しくしてくれて私たちはとても有意義な一週間を送れたと思います。

一日目で私が一番思い出にあることは「新竹」でのことです。新竹の何ていう寺なのか名前をよく覚えてないのですが、寺の前にはフードコナーとは言い難いですが、色々な食べ物売っている店がたくさんあり、私は日本でいう「上野のアメ横」という場所を思い出しました。寺は日本と同じくインドの仏教だと思のですが、微妙に寺の作りは日本と違く、台湾のほうがインドの寺と似ているのではないか?と思いました。さらに寺の入口に左右には沖繩でいうシーサーによく似た犬のような銅像がありました。それから、台湾と沖繩は距離が近かったという点もあり歴史的にも昔からの付き合いがあったのかな?と考えることができました。

四日、五日に私たちがいった日月湖での付近のことと、寺のこととも私はよく覚えていません。

九月二日は九族文化村という遊園地や色々な民族の文化を紹介しているところに行きました。私たちは、九族文化村と日月湖をつなぐロープウェイに乗って山の上のほうに行き、そのアミ族エリアで、アミ族によるパフォーマンスショーを見ました。私は見るのに退屈してしまいました。日本では滅多に見られないダンスで、また笑えるところもあって良かったと思います。

宇都宮菜序子

(大正大学 二年)

台湾に行くのは三度目であったが、この訪問は私にとって最高に楽しい体験となった。

過去二回は主に観光が目的だったが、今回は五泊六日のホームステイで、現地の生活を体験し、多くの方々と交流してきた。

私たちを受け入れてくださった台中南ロータリークラブの皆さんはとても温かくて親しみやすく、素敵な人たちだった。実を言う、台湾に行く前はコミュニケーションを取ることに不安があったのだが、話してみると皆が笑顔でひょうきんで頼もしく、あつという間に打ち解けていた。皆さんの案内で台湾の文化に触れ、今まで知らなかったいろいろな面を見ることができた。

真夏の台湾で何をしてきたのか

と聞かれれば、よく食べてよく遊んだと答える。事前には聞いてはいたが、台湾では客人をもてなすために食べきれないほどの食事を出すというのは本当で、

その量は私の想像を軽く頭ふたつ分は超えていた。出されるものすべてが新鮮で美味しく、私の胃がもつと大きかったらと欲がでたほどだ。ちなみに、一番のお気に入りには牡蠣麺線である。たくさん食べたので体重が増えることを覚悟していたが、日本に帰って体重計に乗ってみたらく前と変わっていなかった。なぜ体重が増えなかったのか。もちろん、先に述べたようによく遊んだからである。炎天下のプールや遊園地であれば夢中になって遊んだのは久しぶりのことだった。この遊園地は、九族文化村といって、台湾の先住民の文化を学ぶこともできるテーマパークの施設のひとつであ

った。先住民の文化を学ぶと聞いて、堅苦しいものをイメージしていたが、予想は裏切られ、軽快な音楽と陽気な踊りのショーを楽しんだ。

ここまで私がどれほど台湾を満喫してきたかを述べたが、この数日の間で最も心に深く刻まれたものは別にある。人との出会いである。私を迎えてくださったホストファミリーとは、お互いの将来のことや、日本と台湾の些細だけ大きな文化の違い、趣味や流行についてなど、色々な話をした。また、教わった北京語で話しかけたことをきっかけに、台中南ロータリークラブの方々とも仲良くなれた。同年代の女の子と好きなアーティストが同じとわかって、一緒に音楽を聴いたり買い物に行ったり言葉を教えあつたりもした。運動的ともいえるこれらの貴重な出会いや体験が刺激となつて、

私のこれからの人生を支え、豊かにしてくれることだろう。

吉澤友梨

(上智大学ロシア語学科二年)

あつという間で、夢のような六日間

祖父から台湾の台中に「青少年使節団」の派遣学生として行けることが決つたことを聞き、大変嬉しかった。しかし、同時に不安にもなつた。実は私は漢字が、苦手であり、北京語は全く身近に感じなかったため、ゼロからのスタートになつてしまった。この機会に少しでも勉強して、台湾で多くの友達を作つて帰ってきたと思った。その目標を達成するのに近づけるためにさっそく、会話集を買ってき

た。それから私は、台湾での目標を四つ立てた。「屋台のおいしい食べ物を食べる。積極的に行動すること。言葉を使ってみること。」と決めた。目標を立てたため、台湾では積極的に行動した。結果として、台湾の文化、習慣そしてホームステイファミリー、友達をはじめ自分では計り知れないものを得ることができたと思う。

台湾での六日間という短い期間は、私にとって大きな転換期になったと思う。行く前の台湾という国は、私の中であまりピンとくるものがなかった。母方の祖父からの話を少し聞いていて、自然がいっぱい残っているという素朴な国のイメージだけだった。しかし、実際に台湾に行ってみると町は、近代的で町中にモーターバイクがあふれ走り回っていた。あまりのモーターバイクの多さに驚いてしまった。

この六日間を通じて、今までとは違った自分の目から見た「台湾」を発見できたよう感じる。

今までは、ほとんど知ることができなかつた台湾だが、実際にホームステイしたことにより、台湾という国がより身近な国であることが感じられた。今回は、ホテルステイではなくホームステイだったため、台湾の家族の一日を身近に感じる事ができ、同時に習慣も学ぶことができた。今回、課題となっていた北京語は、会話集を片手にホストファミリーにたくさん練習に付き合ってもらったおかげで、かたことの北京語でも、少しでもコミュニケーションをとることができたと感じられる。それから町の人には失敗を恐れず、なるべく積極的にホストファミリーに習った北京語で、実践してみた。するとある屋台のおじさんは、私が「好吃！（おいしい）好吃」

と言っていたら、私が日本人とわかると嬉しかったらしくおこわをサービスしてくれた。それに対し私は、笑顔で屋台のおじさんに「謝謝（ありがとう）」とすることができて、人の優しさに触れることができた嬉しかった。課題の屋台のおいしい食べ物もたくさん食べられて嬉しかった。台湾での六日間は、本当に楽しく過ごせて毎日があつという間に過ぎていった。言葉は違っても、必死に伝えようとすることで、人間は誰とでも通じ合えるということも、肌で感じる事ができた。それと同時に、もつと台湾の歴史や文化、言葉を勉強しておくべきだった。台湾での六日間の経験を生かし、今後は、英語、ロシア語だけでなく北京語の勉強にも励みたい。そして次回、台湾から訪日された時には、台湾でお世話になった以上の恩返しができるように

したい。本当に今回で少しでも自分の考え方が変わった気がする。以前に比べて台湾という国が、とても身近に感じる事ができた。こんなに毎日楽しく充実した夏休みを送れたことを今心から嬉しく思った。そしてこれからの人生に役立てていけたらとおもっている。最後に、台湾のホストファミリーをはじめ、ホストして下さった方々、大変お世話になりました。みなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。「青少年使節団派遣」に参加するにあたり祖父をはじめ、ご多忙な業務のなか、アレンジしてくださいました赤松さん、ならびに越谷南ロータリークラブの会員の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。 謝詞。

石川潤平

（千間台中学校 三年）

こんにちは、僕の名前は石川潤平です。僕は、今回の台湾ホームステイで日本との文化・食生活の違い、英語の大切さを学びました。その中でも特に僕は、日本との文化の違いにとっても驚きました。まず、驚いたのは、トイレです。日本では、トイレの水圧が台湾よりも強く、トイレレットペーパーも排泄物と一緒に便器に流してしまいます。しかし、台湾ではトイレの水圧が日本よりも弱く排泄物しか便器にながしてはいけなくトイレレットペーパーは、他の容器に入れなければならないことです。僕は、トイレに行く度にそのことだけを考えてトイレをしています。

他には、日本とは比べ物になら

ない程の外食率の高さと貧富の差・建物の作り、そして何よりも、原付バイクの多さです。

まず、外食率の高さには驚きませんでした。僕のホストファミリーの家では、朝食はほとんど外で食べました。車で目的地向う途中、お店に入って食事をしたり、お店でサンドイッチを買って車の中で食べたりと朝食はほとんど外食で夜も、夜市で夕食がてらシヨッピング外食がとても多かったです。

貧富の差では、僕たちが泊まった所はロータリオンに家なので当然家でもかく、綺麗でしたが、飲食街や夜市では物乞いが居る日本とは比べ物にならない位の貧富の差を感じました。

建物の作りでも防犯のためか、扉が二重になっており壁・床・天井すべてが大理石になっており、とても綺麗でした。

そして一番驚いたのが原付バイク

の多さです。日本では絶対に見られないほどの原付バイクの多さに正直、度肝を抜かれました。にほんでは、バイクといつたら若者の男子が乗り、暴走行為を働くという、あまり社会に良い印象の乗り物ではありませんが、台湾では老若男女、問わず皆が乗り、日本では禁止されている原付バイクでの二人乗り、三人乗りがとても多く驚きました。

そして僕が一番驚き 又 不思議に思ったのはあれだけの原付バイクに乗る人が居るのに皆、ヘルメットをして誰一人として暴走行為をする人が見られなかった事です。

最後に僕は、この台湾へのホームステイで、台湾という国のすばらしさを実感しました。それと同時に、台湾の人と交流し、良い友達ができ、良い経験が出来たと思います。

お世話になりました。 謝辞。

### 濱野航玖

(郁文館中学校 三年)

僕は台湾でさまざまなことを学ぶことが出来ました。台湾に行く前は不安な事がたくさんあり

ました。日本と台湾では文化が違います。そのため日常生活や食事など日本とは違い、初めの方は戸惑いもありました。台湾に行つて最初に食べたベーフンやスープは独特の臭いがあり、「やっぱり日本とは違うな」と改めて思いました。けれど段々と台湾の料理に慣れてきました。二日目に屋台で食べた料理は初めて食べた物ばかりでしたがとてもおいしかったです。

言葉では通じない部分もたくさんあったけれど、どうにか自分の気持ちや言いたいことを伝えることが出来ました。ジェスチャーを使ったり紙に漢字や絵を書いたりすることで台湾の人と

もコミュニケーションをとることができました。相手に伝えたいと気持ちがあれば伝わるということも分かりました。

台湾の人はみんなにやさしくてとても良い人でした。日本から初めて来て不安があった僕にもウェルカムパーティーでやさしく話しかけてもらい不安もなくなりました。みんなで行つた三日目のプールや、四日目の遊園地に行つた時には台湾の人達ともコミュニケーションが取れて一緒に遊ぶことができてとても楽しかったです。

ホストファミリーの方々を初めとするみなさんはとてもやさしかったです。台湾の人達は僕達に「あれも食べる」「これも食べる」とたくさんのごちそうをいただきました。ホストファミリーのお父さん、お母さんはとてもやさしく僕が分からない事がたくさんあるのにもかかわらず一つ

一つ丁寧に教えてくれました。そのため分からなかった台湾の文化などが分かるようになりました。台湾の方や自分の親、その他にもたくさんの人のおかげで台湾でいろいろなことを勉強することができ、台湾に行くことが出来ました。だから僕が台湾に行くために協力してくれた人達やとてもやさしくしてくれた台湾のその他のいろいろな人に感謝いたします。

太田有紀

(白百合学園中学 二学年)

私は今回のホームステイを経験して台湾が好きになりました。台湾に行く前は、ホームステイをしたことがなく中国語も英語もしゃべれないので、きちんと

コミュニケーションがとれるのか、どんな旅行になるか心配していました。しかし、ウェルカムパーティのとき、優しい方ばかりで、思っていたよりも日本語が上手な多かったので少し安心しました。

着いて一番初めにおどろいたことはバイクがとても多く、車のスピードも速かったことです。歩道にはバイクが沢山止めてあって、自転車を見ることはほとんどありませんでした。また、スーパーには日本で見かける商品が沢山ならんでいたことにもおどろきました。ほかにも日本のアニメの看板がかつていたり、日本語のメニューがあつたりと、日本文化があふれていました。旅行前から楽しみにしていたことの一つに中華料理があります。台湾の食事は量が多くいつもお腹いっぱいまで食べることがで

きて幸せでした。特に三日目は屋台で夕食を食べた後、家族で焼肉を食べに行つてお腹がはち切れそうでした。

夜市には沢山の人がいて、日本ではあまりみられないようなにぎやかな光景でした。洋服やアクセサリーも日本より全然安く、買い物をしているととても楽しかったです。日本のお祭りなどとは比べると、屋台は少なかったですが、建物の中のお店にドアがついていなくて屋台のような雰囲気でした。

私達を迎えて下さった台湾の皆様はもちろん、一緒に行ったメンバーも頼もしく、年下として面倒を見てくれました。こんなにもホームステイを楽しめたのは皆様のおかげです。最初は不安も多かったホームステイでしたが、徐々になれてきて、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。

浅水円花

(白百合学園中学 一学年)

私は、ロータリークラブで台湾へホームステイさせて頂くという活動に参加する前、台湾での生活について、少し不安に思っていた。理由は山ほどある。一人を除いて皆と初対面であったこと、他国に行くのは初めてだということ、英語が満足に話す事が出来ないこと・・・多くの不安の中、私は、まだ行った事の無い台湾への期待に胸を膨らませてもいた。

初日、台北空港に降り立ち、私は初めての海外に興奮していた。着いてすぐに、台中南ロータリークラブの方々と共にバスに乗り込んだため、台湾に来たという実感はまだあまりなかったが、テレビから流れる音楽が日本語でないことや、バスの窓から、



大量のバイクが見えたことなど、日本との違いを見つけたら、ここは台湾まのだと実感し、胸を躍らせた。

その夜のウエルカムパーティーで、初めてホストファミリーと対面することとなった。

今回私がホームステイさせて頂いたのは、去年、私の家に長女アリスがホームステイした家庭。アリスとはメールや手紙で連絡を取り合っていた仲だったうえ、一家全員優しく明るい方ばかりだったので、私はすぐに馴染む事が出来、とても居心地が良かった。

皆、思いやりにあふれた方たちばかりで、様々な場面で細かいところまで気遣って頂き、快適な生活を送ることが出来た。最終日には一週間も満たないほどの短い時間だったはずなのに、ホストファミリーの皆との別れが辛くなった。それはきっと、

皆の温かさから来る感情だったのだと思う。最後に一人ずつぎゅっと抱き合い、別れを告げた。

また、六日間の内、一番変化が大きかったには、台湾と一緒に行ったメンバーとの絆だ。最初はギクシャクとした関係ではあったが、徐々にその緊張も解け、今ではすっかり良い友達になることが出来、新たな絆の誕生に喜びを感じた。

最後に、この機会を与えてくださった越谷南ローリークラブの方々、いつも楽しく過ごさせて頂いたホストファミリーの皆様、最年少の私を気遣ってくださいました青少年使節団の団長、並びに団員たち、そして温かく私たちを歓迎してくれた台中南ローリークラブの方々に心からの感謝を送りたいと思う。

大熊健史

(東京コミュニケーション)

テクノロジー学校

台湾旅行、当初自分はホームステイなんて知らされておらずに普通の旅行程度と考えていました。詳しく知らされたのは一回目の集まりの中華料理を食べに行った時に知らされました。

ホームステイ先の子のプレゼントを買っていくことを知って自分ら男どもで浅草に行き考えることになりました、自分くらいの年の子と小学生の子と、台湾の子供が何を貰ったら喜ぶのかで凄く悩みました。

初日、初めて飛行機に乗る自分は心臓が止まるかと思いました。沈んでしまうのではないかととても恐怖でいっぱいでした。飛行機の中、空の上にいる恐怖を忘れて自分は寝ていました。

気付いたらバスに乗っていた自分は新竹という場所に連れて来られました。ここにあるお寺のポンポンポンカーンというリズムに笑っていたのは自分だけでした。そのあとビーフンと肉団子が入ったスープを食事しました、自分はまあまあ美味しかったと思いましたが男子は殆ど残していました。

またバスに乗せられ精華大学という場所へ向いました、その道にバイクが大量にあり自分は凄く驚きました。精華大学の人は日本のアニメが好きみたいで自分は英語が出来なかつたので、が言いたいことは伝わりました。ウエルカムパーティーの食事会が終わって自分とじゅんべいはこれからお世話に *parent* さんに連れられて車に乗りました、そして家に着いたときに知ったのですが俺の英語のレベルの低さでした。今まで英語というもの

から逃げてきたことを凄く後悔することになりました。漢字を書いてもらつてなんとか理解できました。

二日目、ホームステイ先の子供の rex 君達を学校のバスまで送った後に博物館へと連れてつてもらった自分らは茨城の博物館と同じものが置いてあると変わった楽しみしながら博物館を回り patent さんを置き去りにして回ってしまいました。本当にごめんなさい。そしてまた歓迎会があつてそのあとに皆で外に食事に連れてつて貰いました。夜だというのに物凄い人がいっぱいいて迷子になると思いました。そして死ぬほど飯を食べて地獄を二回味わい、だけど服を買つて貰つたり買い物に連れてつてくれたりと、とても幸せな気分でした。

あとプールなどで熱中症に掛かりかけたり、遊園地で強がって

見せたり、酒のアイスを食べないと皆のぶんを食べて頭が痛くて死にかけてたり、でつかい池で船酔いしているメンバーにちよつかい出したり、西遊記の三蔵法師の墓に電話機が設置されているのを見て笑つたり、阿修羅がいったい飾つてあるお寺で愚痴を言つたりとたくさんのことがありました。正直かききれませんが。色んな体験とたくさんの思い出がある中で自分は台湾は優しさで恵まれた国だと感じました。

無関係な人でさえ言葉が分からない自分に手で物事を教えてくれたり、ズボンを買つたときに大きなサイズしかないからとなくにも言わなくとも縫つてくれたり、一番心に来たのは言葉も喋れない迷惑ばかり掛けた自分に一生懸命向き合ってくれた patent 家族の対応です。

ふと台湾から帰る空港、自分が

好きな歌のワンフレーズが頭の中をずっと掻き廻っていました。「どんなに不自由でも幸せは掴める」ちよつと意味は違いますが、けど言葉なんか喋れなくても行動はそれを超えることが出来ると感じました。

ふだん自分は「やるよやるよ」と言葉だけでやりすごしたり逃げたり言葉の便利さを利用して卑怯な事に使ってきました。

だけど行動だけの世界では逃げだしたり体を動かさずに物事を伝えたりする事が出来ません、むしろとうまわしになんて絶対にもひりでした。

不自由な世界で混乱して人間の言葉を喋っていなかった。顔をひっぱつて感情を無理に伝えようとしていた馬鹿な自分。

台湾に行つて、台湾と一緒に行ったメンバーと出会つて、台湾でホームステイをしたお陰で自分は忘れていた大切な気持ちを

思い出せました。それはなんなのか難しく言い表せる事が出来ませんが、それは居心地の良いもので学校の卒業式とかで良く感じる決意みたいなもの。この出会いと経験と気持ちを忘れずに俺はまた来るであろう困難でも悔んでも越えられるように頑張りたいです。

この感想文は、平成二二年八月一九日から二二日までの期間、日本・越谷南ロータリークラブと台中南ロータリークラブとの間で催行された「青少年使節派遣団」事業の一環として、訪台された生徒からの投稿文です。当協会の赤松理事（越谷南ロータリークラブ員）の取り纏めによるものです。

【お知らせ】

○社会見学会は、七月一五日好天の中、当協会茨城県支部長・石川多聞茨城県議会議員（元茨城県議会議長）も参加され、茨城空港、百里基地、イトウ製菓小美玉工場（島田穰一・小美玉市長同席）日本原子力研究開発機構・J・PARKを視察致しました。

○訪台団（辛亥革命百周年記念）

双十国慶節訪台団は参加希望者少数の為、催行を中止致しました。

○訪台団（日本・羽田空港・台北・松山空港就航記念）

十月三十一日～十一月三日、初フライト便搭乗は、催行致します。

○台北駐日経済文化代表處横浜分處長に廖經邦副代表が着任された。

○中華民國建國九十九年双十國慶節祝賀会・式典

台北駐日経済文化代表處は、一〇月七日・Hオークラ。

東京華僑総会は、一〇月三日・東京中華学校。

横浜華僑総会は、一〇月五日・ローズ・Hで盛大に開催されました。

○台湾留学生（中華民國留日東京同学会）との懇談会・国会見学会は

一二月八日・水曜日一時半より一四時まで開催を予定しています。

【編集後記】季刊「亜東」秋季号 No.三十五号

○赤松理事より、越谷南ロータリークラブが主催された「青少年訪団」

生徒の感想文が取り纏められ投稿されましたので掲載致しました。

○協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。

会員各位のご紹介により皆様のご参加を期待致しております。

（申込書は事務局に用意しています）

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

【寄稿のお願い】

○二〇一一年、中華民國建国百年を迎えます。会員の皆様のご寄稿を

お待ちしております。一頁、一三〇〇文字。二頁、二六〇〇文字。

三頁、三九〇〇文字。四頁、五二〇〇文字。写真も掲載可能です。

原稿は、メールにて頂戴出来れば幸いです。締切日・一二月一五日。

表題【亜東】は中華民國總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 亜東 （アジアの架け橋）平成22年 夏季号（No.35）

発行日 : 平成22年10月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

編集人 : 南部晴彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

やすらぎの空、快適な翼。

